

展 示 報 告

テーマ展 酒づくりと秋田 (実施期間 昭和52年1月8日～6月29日)

(1) 展示の目的

秋田は「酒の国」と称されるだけあって良酒がつくられている。しかしそれは大正時代になってからのことでそれまではむしろ悪酒で知られ、山形県の「大山伝」に依っていた。また秋田は、明治32年濁酒製造が禁止されて以来、大正・昭和を通じ濁酒の密造の多かった事でも知られている。例えば昭和2年から11年までの密造犯検挙数をみると、全国4万236人、東北2万4,398人に対し、秋田は東北の半数を占める1万2,325人を数えている。秋田の酒造は、ちょっと見ただけでもこのような問題点があるが、こうした事象を通して秋田を考えてみようというのがこの酒造展のねらいである。

(2) 準備と計画

酒造展を昭和51年度の後半にもつことが決まったのは、50年10月21日である。しかしその前に実施する勝平展の方にエネルギーが集中し、この年度中酒造展に関する会合のもたれることは一度もなかった。従って予算の準備も充分でなく、開館間もない時点であってみればやむを得ないが、館の計画としては問題であり反省すべき点であろう。51年4月13日、年度が改まり分担、調査項目等が再編成された。この時点で決まった小テーマと分担は、1酒の生産と分布(塩谷・国安・加藤)、2酒造りと用具(木崎・磯村)、3酒と生活(嶋田・太田)で、更に普及の分担として高田・庄内がきまった。その後6月26日と9月27日に担当の会合もたれ、10月30日小テーマ別展示面積、展示資料が確定した。なおくん蒸前に借用資料を収納する計画をたて、8月下旬までほぼそれを完了した。借用先と借用資料は以下のとおりである。

県酒造組合…文書パネル26枚 レッテル屏風1 レッテル掛軸1 酒造絵屏風1 とっくり2 かのかき樽1
 じょうご樽1 手長樽1 こんぶり1 ささら1 ためし桶1 あわけし1 つるべ1 こま2
 湯沢酒造会館…だきだる1 圧縮機(模型)1 泡尺2 かぶと3 ふかしべら1 たしこ4 下駄1
 こしきこま1 酒袋1 とんぼ指3 ごみすくい1 かいぼう3 くま手1 指し2 かすり1
 鈴木淳一郎…らんびぎ1 野外用保存酒器1 野外用酒樽1
 油谷満夫…自飲酒醸造届1 酒切符2 商品券1 濁酒がめ1 半丸じょうご2 片口木鉢1 酒しぼり1
 大井建徳…酒造御布告1 秘書1 実地酒造秘書1 酒造心得扣1 酒類製造人心得1
 湯川雄一…とっくり2 杓3 びん1 かご1 だき樽2 袋3 酒類販売用具一式 看板2
 下橋治助…ガラスストックリ1 相馬焼ストックリ 木製酒器10 酒がめ1
 上 田茂…酒株札1 酒鑑札・糶鑑札各1。奈良淳一郎…祝用酒器。目黒邦之助…売目録
 齊弥酒造店…酒器。栗林啓亮…行商鑑札

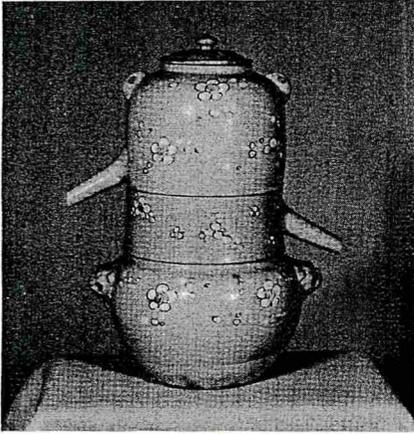
(3) 展示内容

展示の構成は酒造の歴史、酒と生活、酒造用具の三つから成るが、テーマとしては 1) 酒づくりのうつりかわり 2) 酒器のいろいろ 3) どぶろく用具 4) 酒販用具 5) 酒づくりの工程と用具の5つを立てた。1) では藩政期の酒造り絵図と、同時代に飲用された酒の種類をパネル化し、藩政期、及び明治の古文書を資料として展示したが、2) 以下も手造り時代の資料が中心である。

(4) 展示の成果

展示がどのような成果をあげたかは判断するデータを取りにくいので非常にむずかしい。結局、その展示に来館者がどんな形で反応を示したかに依るしかない。端的に言えばその展示室に何分いたか等が判断の材料になる。「酒づくりと秋田」では、テーマが生活に密着していたため興味があり、報道機関の取り上げもひんばんで来館者の定着度もあったように思う。研究成果を展示するといった内容ではなかったが、珍奇な酒器も多かったので単純な意味で良い展示であったように思う。要するに博物館の展示にはいろいろな内容のものが必要だと言うことであろう。

(塩谷順耳)



らんびき



野外保存用酒器



野外用酒器

